

## 令和5年度を振り返って

倉敷教育センター 館長 藤田 哲彦

初めに、この度の令和6年能登半島地震により犠牲となられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被災された皆様、また、御家族・関係者の皆様に心よりお見舞い申し上げます。また、被災された方の救済と被災地の復興支援のために御尽力されている方々に深く敬意を表します。

被災地域の皆様の安全と、1日も早い復興をお祈り申し上げます。

さて、教育センターでは、「教職員研修」「適応指導」「教育相談」「教育情報の収集と提供」といった四つの機能を中心に今年度も取り組んでまいりました。ここで、それぞれの機能について振り返っていききたいと思います。

最初に「教職員研修」についてです。岡山県教員等育成指標等をベースにしながら人材の育成を図り、26の講座で延べ4,680名の方の受講がありました。法定研修の初任者研修と中堅教諭資質向上研修では、受講者が年間を通じて段々と成長する姿を見ることができ、とてもうれしく思いました。初任者研修では、講義や学校園での授業参観等を通じて確かな指導力や基盤となる資質・能力を身に付けることを目指して取り組んでまいりました。日々の授業実践や学級経営を行う中で芽生えた課題意識をもって、主体的に研修に取り組むことができました。研修中の発言やアンケートのコメントを見ても、経験に基づいた深みのある内容となっておりとても頼もしく感じています。中堅教諭資質向上研修では、学習指導案検討、互いの授業参観や授業動画からの学び合い、講師の先生からの御指摘等から、新たな発見や気づきが生まれていました。特定課題研究発表会では、内容の充実はもちろんですが、ICTを普段から文房具のように使っている姿にも感心いたしました。他の研修においても、多くの素晴らしい講師の先生方のお陰で、受講者が積極的に学ぶ姿勢が見られ、教職員としての成長を様々な場面で感じる一年でした。

また、令和5年4月1日より、研修履歴を活用した対話に基づく受講奨励が始まっています。これによって、教員等の研修履歴を残し、その情報をもとに、当初面談や最終面談での受講奨励に活かしていきます。各学校園で研修履歴をもとに、それぞれの先生方が主体的な研修受講等による資質・能力の向上、職能開発の目標を考えてくださることを期待しております。

「適応指導」では、倉敷ふれあい教室に通室する児童生徒が、友達や先生との活動を通して自己肯定感を高めていくことを目指しています。友達とのかかわりや、教育指導員の継続した受容的な言葉がけを通して、自分に自信をもって子どもたちの良さが発揮されるようになってほしいと願っています。

「教育相談」では、必要に応じて関係機関につなぐことを意識し、教育指導員や臨床心理士による相談を行ってきました。相談を担当する教育指導員は相談される方の気持ちに寄り添った相談となることを心掛けてきました。最近是不登校に関する相談件数が多くなり、ふれあい教室や学校、他機関等とも連携しながら、子どもや保護者の不安を少しでも取り除くことができるよう取り組んでいます。また、特別支援教育・不登校がテーマの座談会「とらいあんぐる」「かけはし」を通して保護者支援の充実を目指しました。

「教育情報の収集と提供」では、研究集録、教育雑誌、書籍、教科書を展示し、今後もこれまでの教育とこれからの教育をつなぐ役割を果たしたいと思っております。



最後になりましたが、各学校園の校長先生をはじめ、研修の講師の先生方、初任者研修で日々御指導いただいている先生方、受講者の先生方、その他すべての皆様に、1年間、教育センターの諸事業に温かい御協力をいただき、心から感謝申し上げます。今後とも変わらぬ御理解と御支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

# ☆ 令和5年度 全研修講座が終了しました ☆

中堅教諭資質向上研修 最終回

## 「特定課題研究発表会」



特定課題研究発表会では、中堅研受講者がそれぞれのテーマで1年間研究実践を重ねた成果を発表しました。発表内容は、教科指導、学級経営、特別支援教育、生徒指導、ICT活用等、多岐にわたっていますが、どの発表にも「子どもたちにこんな力を付けたい」という熱い思いがありました。異校種の取組や他教科の実践を知ること新たな学びとなり、中堅研の仲間がそれぞれの分野でがんばる姿は大きな刺激となったようです。

また、3年目研修の受講者は、自らの課題や研究に資するようにと発表会に参加し、熱心に質問をしていました。校長先生や来年度中堅研を受講予定の先生も聴講しています。

中堅研受講者は、この研修をステップアップの機会とし、今後より一層の自己研さんと、ミドルリーダーとしての飛躍が期待されているところです。



### 【中堅研受講者のアンケートから】

- ・ 校種、テーマともに異なる様々な先生のお話を伺うことができ、とても勉強になりました。研究テーマも様々ですが、一年間を通してテーマをもち、実践を継続することで、それぞれ成果が得られたことが分かり、目的をもって継続して行うことの大切さを改めて実感することができました。
- ・ 教師として、目の前にいる子どもの成長のために課題を見つけ、手立てを打ち、検証・評価し、また実践していくというサイクルを回していくことは、とても大切だと改めて感じました。これからは、学校の中核を担う教師としての自覚を強くもち、学校の中でもこのサイクルを回していきたいと思います。

### 【参加された校長先生から】

中堅教諭にとって、特定課題研究発表会は、自分の今までのスキルの積み重ねを振り返る上でとても有効であると感じます。自身の強み・弱みを再確認できるとともに、今後の研究の方向性が見えてくるように思います。教師生活の原点を思い出すことで、さらなるモチベーションにつながっていくのではないのでしょうか。この時期に、他者から得られる情報や刺激は非常に効果的であると思います。

3年目研修 最終回

## 実践発表「学級経営・教科指導」

3年目研修の最終回は、各自がテーマを決めて取り組んできた教科指導または学級経営に関する課題研究の実践発表及び協議でした。

### 【受講者のアンケートから】

- ・ 同じ学年を担当する先生方の様々な実践を聞くことができました。学級経営も授業づくりも、児童の現状に常に立ち返りながら、工夫して行うことが大切だと感じました。
- ・ 他の先生方の発表を聞き、自分ではICTを授業に取り入れているつもりでしたが、まだまだ活用しきれていないと感じるくらいに多くのアイデアを学ぶことができました。
- ・ 他の先生方の取り組みを聞く貴重な機会でした。学級経営で自分が悩んでいることと重なる部分も多くあり、もっと挑戦していかないといけないと思いました。生徒のために、自分ができることは何でもしていきたいと改めて思える研修になりました。



## 令和5年度受講者数

(延べ人数) 合計 4,680 名

1 初任者研修(新規採用学校栄養職員を含む)	1,386名	14 幼児教育研修	334名
2 2年目研修	262名	15 学校事務職員研修会	106名
3 3年目研修	237名	16 学校事務職員スキルアップ研修	82名
4 中堅教諭資質向上研修	819名	17 新規採用学校栄養職員研修	2名
5 16年目研修	172名	18 教科教育基礎研修	137名
6 新任教務主任研修	47名	19 特別支援教育研修	109名
7 新任特別支援教育担当教員研修	136名	20 授業ユニバーサルデザイン(UD)研修	90名
8 特別支援教育コーディネーター研修	137名	21 特別支援学級スキルアップ研修	72名
9 通級指導教室担当教員研修	63名	22 発達検査研修【WISC-IV検査】	52名
10 生活支援員研修	45名	23 学校カウンセリング研修	26名
11 新任講師研修	64名	24 子どもの発達を考える会	46名
12 2年目・3年目講師研修	90名	25 生徒指導研修	104名
13 幼稚園助教諭研修	19名	26 学校・家庭・地域の連携促進事業関係者等研修	43名

## 初任者研修最終回 記念講演

### 「教師に求めたい『教育の心』～ほめ育のすすめ～」

ほめ育グループ 代表 原 邦雄



初任者研修最終回では、『教育の心』について考え、教師人生を歩んでいくことへの意欲を高める」ことを目的に、記念講演を開催しました。

講師の原先生は、大手コンサルタント会社から飲食店に転職し、その現場で実際に通用した教育方法に、脳科学と心理学をミックスさせた、「ほめ育」という教育メソッドを提唱されています。「ほめ育」とは、褒めて育てる教育のことです。プラスに焦点をあてて自己の成長を振り返り、自己肯定感を高め

ていく「ほめ育」について御講演をいただきました。

#### 【研修のキーワード】

ほめ育、相手を知る、  
自分ほめ、成長ありきで振り返る  
プラスに焦点をあてて見る



#### <受講者からのアンケート>

- この1年は、子どものことで頭がいっぱいで、自分自身の成長に目を向ける余裕がありませんでした。また「褒める」という言葉は、相手ありきのものだと思っていたため、今日の研修で「自分ほめ」をしたことで、自己肯定感が高まったように感じました。これからは、自分のことも大切にしながら教師人生を過ごしていきたいと思います。
- 研修を通して「プラスに焦点をあてて見る」ことの大切さを学びました。今までは自分の悪いところに目が向き、落ち込むことが多かったのですが、ほめ育を体験することで、自分のよいところに気付くことができました。今後も大変な時があると思いますが、この1年を乗り越えられた自分を信じて頑張りたいです。
- 1年を通して成長することができたとは思いますが、具体的にどこがどう成長したのかよく分かっていませんでした。今日の研修で成長グラフを作成することで、自分自身の小さな成長に気付くことができました。成長ありきで振り返ることの大切さを実感しました。
- この1年を思い返すと、自分のことを否定的に考える時ほど、子どもにうまく接することができなかつたと感じます。「自分を褒めた分、相手を褒めることができる」という言葉をいただき、余裕がない時こそ立ち止まり、これまで頑張ってきた自分を認められるようにしたいと思います。
- 「全ての人には褒められるために生まれてきて、褒め合うために存在する」という言葉が心に残りました。褒められ、褒め合うことで、自分も相手も幸せな気持ちになるということを今回の演習で再認識しました。自分で自分を褒める言葉を書いて口に出すことは気恥ずかしいですが、書いて口に出すことで、この1年必死にやってきたことが認められたような気がします。これからの生徒との関わりの中でも「褒めて育てる」を意識していきたいです。
- 1年間、「こうすればよかった」と反省ばかりしていた気がします。今日の講演で自分のことを振り返ってみると、今までに頑張ってきたことがたくさんありました。生徒を褒めることはもちろん、自分へたくさんの褒め言葉を与えることも大切だと知ることができました。「自信とは未来の自分を信じること」という言葉のように、自分の未来を信じて、自分を大切にしながらこれからの教師人生を頑張ろうと思います。



倉敷ふれあい教室めぐり

☆ 友だち作り ☆ 体力作り ☆ 野菜作り☆

☆ 楽しく元気に活動 ☆

☆☆ 児島教室 ☆☆



倉敷ふれあい教室児島教室は、児島駅から西1kmのところにあります。元幼稚園のため、教室・体育室・図書室・調理室・運動場など充実した設備を備えています。周辺には児島図書館や味野公園があり、少し足を延ばせば海を見に行くこともできます。

通室日は月曜日から金曜日、午前9時30分から午後3時までです。(水・木曜日は午後1時まで)

主な活動として「なかよし活動」と「スタディ」があります。「なかよし活動」では、スポーツ・創作活動・調理実習・栽培活動などに取り組んでいます。7月の調理実習ではカレーライスを作りました。みんなで力を合わせて作ったカレーライスの味は格別でした。「スタディ」の時間は、各自で課題を準備し一人ひとりが自分のペースで学習をしています。

その他に図書館訪問、散策や遠足など教室外に出かけることもあります。ゆっくりと散策をすると、普段は気付かなかった植物の美しさや地域の文化に触れることができます。豊かな自然の中で木々や鳥の声に癒され、みんなで楽しくのびのびと過ごしています。



おっ!? そうだ!

教育センターの教科書展示室に



寄ってみよう!



研究集録を読みたい!

教科書を比べてみたい!

次の物を展示しています。

- ・ 各発行者の教科用図書(教科書)
- ・ 倉敷市内の小、中、特別支援学校の研究集録
- ・ 研究団体の研究集録(岡山県や他市の教育センター等)
- ・ 教育に関する雑誌・図書  
(「教育時報」「実践みんなの特別支援教育」「学校教育相談」等)
- ・ 研修講座での実践発表、作成した学習指導案等



教育センター  
事務室の隣だよ!



☆ 最長1か月まで 貸し出しが可能です。(教科用図書、研究集録等は閲覧のみのものもあります。また、貸し出しができない期間もあります。)

☆ 開館時間は、月曜日～土曜日の9時から17時15分です。(日曜日と祝日は閉館日です。)

☆ 月曜日(月曜日が祝日の場合は火曜日)はライフパーク倉敷の休館日ですが、教育センターは開館しています。入口の御案内をしますので、来られる方は事前に御連絡ください。

倉敷教育センター ☎ 086-454-0400

☆本(ほしぼん)を知っていますか?

特別支援学級等の指導の参考にも!

特別支援学校では、小・中・高等学校と同じ教科書のほか、子どもの障がいの状態に合わせて作成された教科書などを使っています。文部科学省では知的障害者用に、通称「☆本(ほしぼん)」と呼ばれる教科書を作成しています。小学部用には「こくご」「さんすう」「おんがく」「せいかつ」、中学部用には「国語」「数学」「音楽」があります。倉敷教育センターで閲覧が可能です。

